



**電子黒板**  
画面の大きさは  
幅約1.5m、高さ  
約93cmで65型  
テレビと同じ大  
きさです。

## 電子黒板の活用で 理解が深まる

町ではパソコンの導入とともに、電子黒板もクラスに1台導入しました。先生のパソコンを通して、教科書と同じものを映し出し、拡大して説明することができるよう電子黒板。これまで先生が黒板にチョークで書き添えていた図形なども簡単に表示することができ

ます。そうすることで、授業時間が増え、子どもたちの理解を深める時間に充てることができます。

## 学習支援システムを 使い情報の共有

町では、インターネットを通して先生と子どもたちが双方向にやりとりができ、情報も共有することができるよう学習支援システム「ロイロノート」を導入しています。先生のパソコンから子どもたちのパソコンに問題などを送り、子どもたちは自分のパソコンから先生のパソコンへ回答などを提出すること

# 特集 子どもたちの学び 変わる

ギガ  
GIGAスクール構想や予測不可能な社会に対応するため、教育現場は大幅に変わりつつあります。今回の特集では日々変わっていく子どもたちの学びについて紹介します。



## GIGAスクール構想 により授業が変化する

2019年に文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」により、現在、町内の小中学校ではパソコンや電子黒板を使った授業が行われています。全国の児童・生徒に1人1台のパソコンと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組みです。これまでの教育とICT（情報通信技術）を掛け合わせることで、将来必要となる技術などを学びます。そして、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、能力を最大限に引き出すことを目的としています。GIGAスクール構想は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり急速に進められました。

町では2021年から各小中学校の子どもたちにパソコンの貸し出しを開始しました。このパソコンを活用することで、どこにいても授業が受けられるようになり、学校に行けない時でも授業が受けられる環境が整いました。今までは教科書を読み、ノートを取る授業が主流でしたが、パソコンがあることで授業も変わってきています。

調べ学習では、コンピュータ室まで行くことなく、自分の机で調べること

ができます。また、それらを電子黒板に映すことで、限られた授業時間の中でもクラス全体の意見を一斉に見渡すことができます。そうすることで、子どもたちはお互いの意見を確認でき、学びを深めることができます。そして、先生は一人一人の考えをリアルタイムで確認できるため、子どもたちが分からないままであることを未然に防ぐことができます。

## ICTの活用が 創造性を高める

他にも先生が子どもたちのパソコン

## Interview

高島小学校6年生 保瀬 遥斗 さん

体育で跳び箱を飛ぶときに動画を撮ってもらいました。自分のフォームを確認することで、うまくできたときとうまくなかったときの違いが、すぐに分かりました。



高島小学校6年生  
細谷 綾音 さん

総合の時間は調べることが多いので、友達と分担して調べています。調べたものをすぐに共有できて便利です。パソコンのおかげで前よりも授業が楽しくなりました。



## 児童・生徒が使用しているパソコンは？

町の児童・生徒が使用しているパソコンは「Chromebook」です。写真や動画の撮影もできるため、多くの授業で使用されています。子どもたちからは便利になったという声がある一方で、パソコンを持って行くことで、今までよりもランドセルやバッグなどが重くなったという声もあります。



ができます。また、写真や動画の撮影もでき、体育の授業では自分やクラスメイトの動きを撮影して繰り返し確認できることや、写真を拡大して詳細を確認することで、理解を深めています。

に宿題を送ることで、パソコンで宿題ができることや宿題を忘れる心配もありません。また、印刷の手間を省くことで、資源の削減にもつながっています。パソコンや電子黒板の導入、ICTの活用などで、先生たちの働き方改革や環境問題へのメリットも多いこと、子どもたちへ新しい学び方を提供できることなど、今までにない教育が進んでいます。

日々変化する教育現場で、子どもたちは学び続けています。子どもたちの創造性がICTの活用によって、なお一層伸びていくと期待されます。





## 幸せの花を咲か せる種まき

**岡田** 子どもたちが自分の良さや特徴を自覚して、仕事をする上で必要な力や働くことの魅力を考える研究です。まず、自分の良さや特徴はどんなところか、自分らしさが発揮できることは何かをクラスの友達と協働で理解し、世の中にはどんな仕事があるのか、自分の特徴を生かせる仕事は何かを調べます。そして、生きていくためにはどんな力が必要か、どうしたら実現できるかを考えます。子どもたちから「職場体験をしたい」「夢をかなえた人に話を聞いてみたい」と声が上がったので、実際に夢をかなえた人や海外から日本に来て活躍している人を学校へお招きしました。夢をかなえるためにはどんな力が必要かなどを子どもたちが

直接質問し、学ぶ機会を設けました。  
**山崎** 主体性や創造力、共同的問題解決能力などの数値で図りづらい非認知能力を育み、国の定める幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の研究です。『忍者ごっこ』を通して、忍者の修行に必要な道具はどんな物があるか、修行の場所はどこがいいかなどを一緒に考えました。私の担当している年長児はコロナ禍で入園しているので、友達との距離感を意識してしまい、協力しても合いながら一緒に遊ぶ経験があまりありませんでした。だからこそ、友達との関わりを楽しむことができる遊びを

実践しました。その結果、少し勇気を出して自分の思いを伝えたり、友達の思いに耳を傾けたり、みんなと協力することの楽しさを学ぶ姿が見えるようになりました。  
—— 研修の成果が出ていますね  
**岡田** そうですね。この研修は年25回に渡って県総合教育センターなどで行われています。研修の日は、私の代わりに、授業をしていただいている先生に負担をかけてしまっているのですが、本当に感謝しかありません。自分が研修できているのは周りの先生たちのおかげなので、必ず成長して周りに還元します。  
**山崎** 私は担任なので他の先生に丸く

**山崎** 私は今までにない刺激がたくさんあります。研修の中で自分が取り組んでいる研究を発表する時間が1人30分間あります。最初の5分程度は実践の様子を発表し、残りの時間は内容に対する考察を伝え合い、研究向上のための討議を行います。私以外は小中学校の先生なので、幼稚園教諭にない考え方や意見をいただいています。  
—— 具体的にどんな研究をしていますか？  
**岡田** 子どもたちが自分の良さ

## 変化していく

変わっていく教育現場には、柔軟な対応を今年度の特別研修に取り組む2人の先生



中野幼稚園教諭  
やまざき かずひで  
山崎 一秀 さん

## 教師と子どもが 共に成長する



県総合教育センターが実施する特別研修員研修(以下、特別研修)では、小中学校や幼稚園での授業実践や保育実践などを通して、教職員の指導力の向上や指導的な役割を担う人材の育成を目指しています。  
—— なぜ、特別研修への参加を希望したのですか？  
**岡田** 一昨年は担任と教務主任を担当していて、ハードな1日があつたという間に過ぎていく感覚でした。昨年、担任を外れて時間に余裕ができたことや中堅としての立場を考えたときに、自分の力をもっと高めたいと思うようになりました。そこで、特別研修を受講し、さまざまなことを学ぶ必要があると考え参加を希望しました。  
**山崎** 岡田先生と同じで、やはり自分の力を高めたいと思ったからです。16年幼稚園教諭をやつて、自分の中である程度、子どもや保護者との接し方が分かるようになってきました。また、新人が入ってきて、他の職員を指導できる資質も必要だと感じるようになりました。私から他の先生に何か一つでもプラスなことを伝えるだけで、その先生からたくさんの子どもたちへとつながります。今まで幼稚園教諭が特

## 指導者たち

求められる大勢の先生がいます。今回は、にインタビューをしました。

別研修に参加した前例はなかったので、小中学校で教員経験のある園長が背中を押してくれました。  
—— もともと、2人はお知り合いですか？  
**岡田** まったく知りませんでした(笑)。名前も知りませんでしたね。  
**山崎** 私もしりませんでした(笑)。特別研修に参加することが決まってお互いの顔と名前を知りました。  
**岡田** 特別研修は県内から毎年約40人集まります。その中で、グループ分けされるのですが、私たちはまさかの同じグループ。一緒に研修する中で、山崎先生がとても熱意のある教育をしている

と感ずることができました。  
**山崎** それは私も同じです。グループ内研修でも、岡田先生の熱意をととても感じます。成果にしっかりこだわるところやチャレンジ精神、物事の推進力は早速参考にしています。  
—— 研修に参加して感じることは何ですか？  
**岡田** 出会いとつながりです。小中学校や幼稚園つてそれぞれ横のつながりはあるのですが、縦のつながりは少ないです。特別研修で、山崎先生や中学校の先生たちと出会い、園児の成長や中学生の考え方を知ることができ、今後の教員人生に生きてくるなと感じます。



高島小学校教諭  
おかだ ゆうすけ  
岡田 悠亮 さん



特別研修で2人の指導を担当する大島さんにインタビューしました。

## 子どもの未来のために

今回、邑楽町から2人の先生が受講していますが、同じ町から小学校と幼稚園の教員が同時に参加するのは、まれなことです。校種の異なる2人を私が担当することになったのも何かのご縁です。そんな、2人の研究の根幹には『子どもたちの未来のために』という情熱があります。2人とも、子どもたちに関わり合うことの楽しさを見つけることや自信をつけさせる教育を心掛けています。

コロナ禍で入園・入学してきた子どもたちは、人との関わり方や距離感を意識しながら生活をしてきており、周りとの関わり方に自信が持てないという声も届いていました。

そのような課題に対し、2人は『集団としての肯定感』を高め、子どもたち自身が私たちならできると思えるようなアプローチをしています。1人では難しいこともみんなで協力することで解決できる。達成感を味わうことで自信が付き、周りとの心地よい関わり方に気づくことができます。

この研究も最初からうまくいった訳ではありません。壁にぶつかることもありました。ですが、教育に対する芯がぶれない2人だからこそ、別のアプローチ方法を模索し続けて、子

どもたちの成長に結びつけることができています。

常に教育現場は変化し続け、求められることは変わってきます。その変化に柔軟な対応をしながら、子どもたちの成長や人間性の向上を目指した教育を続けてほしいです。



おおしま たかし  
県総合教育センター 指導主事 大島 崇 さん

## 世界に羽ばたくために



ふじえ としひさ  
町教育委員会 教育長 藤江 利久 さん

GIGAスクール構想が進み、以前では考えられない教育環境で子どもたちは学んでいます。パソコンを使い、授業中でも気になったことや疑問に思ったことをすぐに調べられること。自分の意見やクラスメイトの意見を電子黒板で共有してさらなる発展があること。このように、ICTを活用することで、子どもたちの理解度や学習意欲がますます高まっていると感じます。

これからも、子どもたちには学習する楽しさや意欲を身につけてもらい、さらに学びたいという意識を持ち続けて、いずれは世界に羽ばたいてほしいと願っています。

それをフォローするためには、町の教育が子どもたちの成長段階に応じて縦につながる大切が必要です。もともと熱意がある2人だからこそ、特別研修に参加することで得るものも多いと思います。まだ研修の途中ですが2人の成長を感じています。2人が研修で学んだことを周りの先生に伝えていくことで、町全体の教育力の底上げにつながります。そうすることで、子どもたちの教育環境が整い、よりよい教育を届けることができます。

これから、研修の追い込み期間に入ります。今以上に熱が入り、精進していくと思います。2人の成長が子どもたちの成長にもつながっていきます。

日フォローしていただいています。また、忙しそうにしていると『代わりになりますよ』って声をかけてもらえることもあります。周りの協力なくしては、この研修に参加できなかったのも感謝の気持ちでいっぱいです。だからこそ、この研修を有意義なものにします。

—— 最近取り組んでいることはありますか？

岡田 欠席などの確認をするためのフォームや学校により、学年通信などの配布物をインターネットから閲覧することができるようサイト作りに取り組み、実際の活用が始まっています。

山崎 異学年交流を再開しています。私のクラスの子はコロナ禍の入園のため異学年交流の経験がありませんでした。それでも、さまざまな遊びを経て交流を持ち、今では下の学年の子に遊びを教えてあげています。

—— 園児や児童にどんな成長を願っていますか？

岡田 今は、職業がどんどん変わっていく時代です。仕事の種類は、数年前は約1万7千あり、その数は現在も増えているといわれています。今ある仕事はどんどんなくなっていく、新しい仕事が生み出される時代です。今ある仕事に限らず、自分で仕事を生み出すことや新しい仕事にも臆することなくチャレンジ

できる力をつけてほしいです。その際、自分の良さや特徴を理解して仕事を選び、頑張っていきたいです。私自身は、今以上に子どもたちの良さを先生や周りの友達が気づくような学校にしていきたいです。

山崎 子どもたちにはとにかく幸せになってほしいです。将来、何かの壁に突き当たったときに、過去の経験があったから乗り越えられたと言える経験をたくさんさせてあげたいです。この仕事は、種まきのようなものだと思うています。自信が持てる種、挑戦できる気持ちの種、人に優しくできる種など園児たちにいろいろな種まきをしている感覚です。すぐに花を咲かせる種もあれば、後になって花を咲かせ実をつける種もあると思います。たくさん種のまいておくと花が咲き、実を結ぶ可能性が高まります。子どもたちに幸せな人生を歩んでもらうために頑張ります。

—— 今後について一言どうぞ！

岡田 研修に参加する年度が違っていたら、私たちの出会いはなかったです。今後は、園・小学校・中学校の縦のつながりを意識しながら、子どもたちの成長を支えていきましょう。

山崎 研修の内容を周りに伝えていき、周りも巻き込んで、子どもたちの未来のために頑張りたいです。



## 授業実践写真



▶夢をかなえるためにはどんな力が必要かなどを質問



▶友達との関わりを楽しみながら学ぶ